

'06.5.26



アンネのバラ

アンネのバラは、ベルギーの園芸家が「アンネの日記」に感動し、品種改良を重ねてできた新種のバラ。四季咲きで甘い香りがする。アンネの父オットー・フランクさんも、イスの自宅の庭で育てていた。

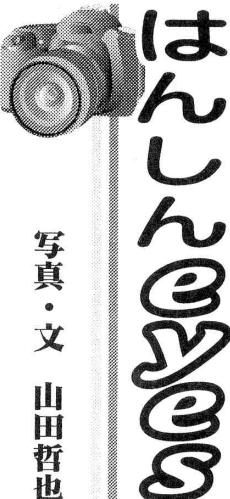
アンネのバラが日本に贈られたのは、同教会関係の合唱団とオットーさんとの出会いがきっかけだった。

71年、合唱団が平和の懸け橋としてイスラエルを訪れた時、昼食中のオットーさんに偶然出会った。その場で歌を披露したところ、翌年のクリスマスに「友情の印」として、バラ

アンネのバラは、つぼみの時は赤く、開花すると黄金色になり、ピンク、赤へと花弁の色が変化する。4代目の高橋数樹牧師は「色が変わるバラは、アンネの多彩な才能を表しているようだ」と話す。

教会の2階にはアンネ・フランク資料館がある。世界でもほとんど残っていない、アンネが愛用した家紋の入ったスプーンや切手入れ、靴べらなどの遺品を展示している。

資料館は毎週土曜日、午後1~5時に一般に開放している。事前に申し込みが必要。問い合わせは同教会(0798・74・5911)。阪急電車の夙川駅で甲陽線に乗り換えて甲陽園駅下車。北へ徒歩8分。



写真・文 山田哲也

□□□27

例年は5月の第2週ぐらいが見ごろだが、今年は寒さのため開花が遅れている。今週末でも十分に楽しめる

はなびらの色が変化

